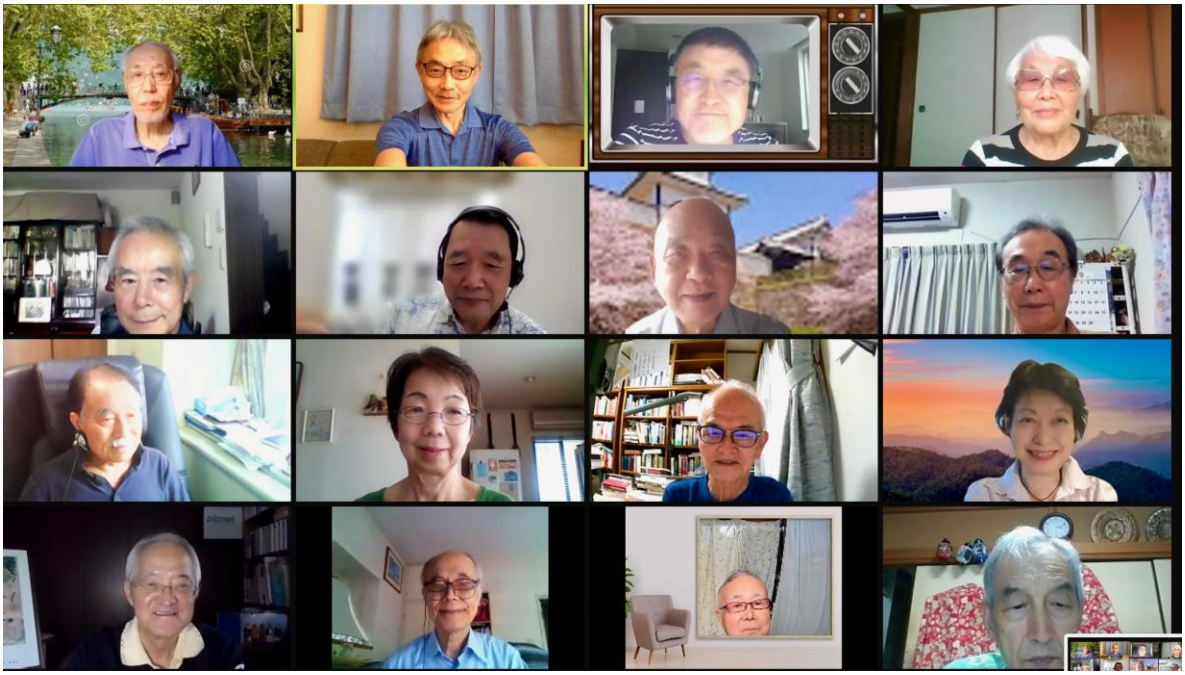
JLC 第８５回研究発表会

2021 年９月１８日（土） 14:00-15:00

オンライン会議方式

Jokes around the Bible Belt

岡本真弘人



撮影：小澤正樹

そもそも、Bible Belt なる言い方は H.L. Mencken（1880-1956）が Chicago Tribune 紙上に 1920 年代に登場させた、と言われている。ジャーナリストであった彼は、一方ではアメリカの言語学というと必ず名前の出てくる人で、*The American Language* なる大部の書がある。

Bible Belt は Arkansas, Mississippi, Tennessee といった地域で、教会への出席率が高いとか、進化論に異を唱えるとか、いうことが言われており、反知性主義の地域と揶揄されることもある。

こういうアメリカのある地域を表すのに、“belt”を使う表現には先輩が二つあり、そのうちの一つが Alabama, Georgia, Mississippi あたりで、Cotton Belt（1870 年代から）と言う。Georgia 州の Atlanta は *Gone with the Wind* の舞台として有名であるが、南北戦争後に綿花産業が勃興し、Atlanta 郊外にはこれで財を成した人たちのお屋敷が見受けられる。映画 *Driving Miss Daisy* もここでロケがなされた由。Morgan Freeman 演ずるお抱え黒人運転手と老奥様と

の心の交流を描いている。この老奥様の息子が紡績会社の経営者。因みに、first name に Miss などをつける言い方は黒人の使用人の間でよく行われたことらしい。この映画のタイトルは、強いて翻訳すれば、「デイジー夫人を車でお連れすること」となろうか。

もう一つの belt が 1880 年代からの Corn Belt。Iowa, Illinois, Indiana の一帯は世界最大のトウモロコシ畑と言われている。Hitchcock 監督の映画『北北西に進路を取れ』(*North by Northwest*)では、Cary Grant 演ずる主人公が Chicago 発 Indianapolis 往き Greyhound バスで Highway 41 を南下。指示された Indiana 州のバス停で降りると、そこは見渡す限り 360 度の地平線。しかも、道路わきにポツンと立っている今降りたバス停の名称が Plains。ここで彼は突然、農薬散布の軽飛行機から攻撃を受けるのであるが、慌てて逃げ込んだところは僅かに刈り残されたトウモロコシ畑であった。アメリカでは基本的に縦の南北のハイウエイは奇数号線、かの「Route 66」のように、横の東西線は偶数である。

ついでながら、後発の地域 belt には、California から North Carolina に至る、冬場でも陽光降り注ぐ Sun Belt や、また、斜陽化した鉄鋼業地帯の Rust Belt がある。Rust Belt には Rust Bowl という言い方もある。これは南側の炭田と北の五大湖の間でボール状になっているせいであろう。ただ、この言い方は Dust Bowl と紛らわしい。Dust Bowl とは 1930 年代の大旱魃に見舞われた中西部のことで、John Steinbeck の『怒りの葡萄』(*The Grapes of Wrath*) に描かれている。John Ford 監督、若き Henry Fonda の主演で映画化もされている。

ついでのついでになるが、Bible Belt から派生して、「どの教会にも属さない」人が多い、という観点で、Oregon, Washington あたりの北西部地域が Unchurched Belt と言われたりする。また、Sun Belt に対しては、Snow Belt とか Frost Belt といった名称が北東部の五大湖沿岸に用いられることもある。

さて、本題の以下に取り上げられている Bible Belt でのジョークは、Arkansas 州・Little Rock で著された *The Preacher Joke Book* からのもので、教会・牧師・信者の三者で織りなされたものである。登場するキリスト教の宗派は Presbyterian, Baptist, Methodist, Catholic, Episcopalian といったところ。また、「牧師」に相当する語には preacher, minister, clergyman, pastor, bishop 等がある。ここでは単に牧師としておく。

上記の書によると、南部の方へ最初にやって来た宣教師は Baptist で、そして道が切り開かれると Methodist が来、道路らしいものができると Presbyterian が来たそうだ。Episcopalian は列車のプルマンカーでようやく登場したとのことである。

1. Forgot to Ask 「聞き忘れ」

A woman called on the Presbyterian minister and asked him if he would preach a funeral for her dog who had died.

"I can't do that, ma'am," he said. "Why don't you try the Baptist preacher?"

"All right," she said, "but you can give me some advice. How much should I pay him, three hundred dollars or four hundred dollars?"

"Hold on," he said, "I didn't know your dog was a Presbyterian."

解説

ある婦人が、死んだ飼い犬を弔うのにけっこう

な額を用意しているらしい、と察した牧師がいったんは断っていながら、あわてて「自分のところでお弔いをやってあげますよ」と言いたいところを「お宅の犬がウチと同じ Presbyterian とは知りませんでしたな」という言い方をしている。なお、ここに出てきているドルの値打ちは現在の 1 ドル 110 円がらみではなく、プラザ合意のずっと前のレートと思われる。なお、プラザ合意とはドル高を是正する 1985 年の Plaza Accord のことで、セントラルパーク南端に通り一つで接していて、五番街にも面しているプラザホテルが会場であったことによる。このホテルは先ほどの映画『北北西に進路を取れ』の冒頭に出てくる。このホテルのカフェで、主人公は別人と間違えられたのであった。

2. Emulation 「模倣」

A preacher on his deathbed summoned his doctor and his lawyer. They came, and he asked them to sit on either side of his bed and hold his hands. They sat thus for a long while until the doctor stirred and said, "You don't have long on this earth, Reverend. Better tell us why you asked us to come."

The old preacher stirred himself and wheezed, "Well, Jesus died between two thieves, and that's the way I want to go too."

解説

いまはの際にある牧師が、かねて世話になっていた医者と弁護士に来てもらい、ベッドの両側で手を握ってくれるように頼む。やって来た二人は呼ばれた理由が解せない。なんのことはない。牧師にしてみれば、かねて世話になっていたとは、かねてカネをふんだくられていた、という思い。「私もね、キリストと同じように二人の盗賊に挟まれてあの世にいきたいのさ」と、息も切れ切れに言った、とのこと。

キリストはゴルゴタの丘の上で、二人の盗賊を両側にし、磔刑に処せられた。「ゴルゴタ」とは、パレスティナ地域の言語の一つ、アラム語で、「頭蓋骨」の意味である由。丸っこい丘を想像してしまうが、何か施設が構築されてしまい、丸い丘らしさは今は分からない、と長谷川会員からうかがった。イエルサレム郊外にある。

キリストは盗賊らと同列に処刑されたわけであるが、彼はローマ帝国の手先となっている徴税請負人であるとか、遊女であるとか、ユダヤ人の忌み嫌う人達と交わりを持ち、邪教を広めようとしている不逞な輩、と思われたらしい。

3. Honest Mistake 「正直な過ち」

The preacher had been invited to dinner at the home of some of his parishioners, and he was seated by the hostess. He had a glass of wine, to which he was unaccustomed. Halfway through the meal he turned to his hostess and said, "I don't want to alarm you, but I think I'm paralyzed. I've been squeezing my leg for about five minutes and I can't feel a thing,"

"Oh, don't worry, that's my leg you've been squeezing," she said.

解説

その青年牧師はよほどうぶであったのか、食事に招かれたお宅の奥さんの脚を緊張のあまり食事中自分の脚だと思って締め付けていたらしいのである。ハット気が付いて恐縮している彼に対して、奥さんのほうは気分よかったのか、「いいんですのよ」と、あっけらかんとしている。"I don't want to alarm you, but…"は何か悪い知らせを言うときの前置きの常套句。

4. Daniel and the Lion's Den「ダニエルと獅子の洞穴」

An aunt of mine was teaching Sunday school. She was telling the youngsters about Daniel and the Lion's Den. She had a picture of Daniel standing brave and confident with a group of lions around him. One little eight-year-old girl started to cry.

The teacher said, "Don't cry. The lions are not going to eat Daniel."

The girl said, "That's not what I'm crying about. That little lion over in the corner is not going to get any."

解説

Daniel とは、紀元前のユダヤ人のバビロン捕囚（Babylonian Captivity）なる事件が背景になっている人物である。Daniel は王に取り立てられたものの、それが故に妬みを買い、図り事とは知らぬ王によってライオンの洞窟に入れられてしまったのであった。しかし信心深い Daniel は神の加護を得、ライオンに襲われることはなかった。Rubens らの描いている構図である。ここでは、女の子が Daniel が可哀想だと泣いているのではなく、隅にいる小さなライオンが分け前にあずからないのでは、と泣いているのがおかしみになっている。Sunday school は児童を対象に教会で行われる聖書を学ぶクラスのこと。

5. Peanuts, Peanuts 「ピーナッツ、ピーナッツ」

The new young pastor was calling on the elderly who could no longer go to church. His first call was to Aunt Sally, who was quite old and in a nursing home. He was somewhat nervous, and he kept eating peanuts from a bowl beside her bed. When he got up to leave, he noticed that he had eaten all of the peanuts.

"I'm so sorry. I ate up all of your peanuts," he stammered.

"Oh, that's all right," Aunt Sally said, "I'd already gummed all of the chocolate off of them anyhow."

解説

新米の牧師なりたてらしい若者が、ホームに入っている老婦人を慰問に訪ねたのはいいが、緊張しすぎて、つい、ベッド横にあったボールのピーナッツを次から次へと口に運び、さて、失礼しようと立ち上がると、ピーナッツを全部平らげてしまっていることに気が付いた。ひら謝りの彼に「構いませんよ。（外側の）チョコレートはすっかり歯茎で食べちゃっていましたから」と、お婆さんの弁。ピーナッツは歯無しお婆さんの食べ残しだった、ということ。

6. Commandments 「戒律」

The preacher was teaching the men's Sunday school class on the subject of the Ten Commandments. When he discussed "Thou Shalt Not Steal," a man on the front became distracted and agitated, but when he got to "Thou Shall Not Commit Adultery," he relaxed and started paying attention again. The preacher asked the man after class if anything was wrong.

"Oh, no, Preacher, it's all right. When you mentioned the one about stealing, I got upset because I thought somebody had taken my

umbrella, but when you got to the other one about adultery, I remembered where I left it."

解説

この場合の Sunday school は、男性向けに聖書を勉強するクラスのようで、アメリカの友人に男性向けのこういうクラスがあるのか、と問うてみたところ、"it's not unheard of" とのこと。保守的な地域の教会で多いらしい。また女性向けや、ハイスクールでも行われる由。Michigan 育ちの彼女もハイスクールのとき、このクラスに出ていたそうである。

ここでは所謂「モーセの十戒」を牧師は講じている。「汝、盗みをするなかれ」のところでソワソワし始めた前列の男が「汝、姦淫をするなかれ」へ話が及ぶと、落ち着きを取り戻した。これを見てとった牧師がクラス終了後、どういうわけかと声をかけたのだった。すると、彼は言ったのである。「盗み云々のところで、傘を誰かに盗られた、と思って慌てたんだけど、話が不倫云々に移った時、傘をどこに置きっぱなしにしたか、思い出したんでさー」、と。

「モーセの十戒」は『出エジプト記』(the Exodus)、つまり、モーセ(Moses)に率いられたイスラエルの民のエジプト脱出の記に出てくるわけだが、神がシナイ山の頂にてモーセに与えた十か条の啓示のこと。因みに、C.B.DeMille 監督、Charlton Heston の出世作映画『十戒』(1956)が有名である。

ここには、規則や法令で「何何すべし」の意を表す shall、その古い形である shalt、そして否定の形である「するなかれ」shalt not が登場している。主語が"thou"のときに限られる。なお、「十戒」は日本語辞書によると「じっかい」であって、「じゅっかい」ではないようである。筆者には「肌襦袢」とか「長襦袢」とか言う「襦袢」を昔の人が「じゅばん」ではなく、「じばん」と言っていたことが思い出される。この衣服はポルトガル語由来の gib*ao* が語源なので、「ジバン」が本来の言い方である。

7. Uncertain Pedigree 「不確かな家系図」

This unmarried woman had three sets of twins, two, four, and six years old. She went to the welfare office to get some help. She filled out the forms and sat down with a social worker for an interview.

"Do you have a husband?" the social worker asked.

"No, ain't never had one."

"Well, who is the father of your children?"

"It depends on which ones you're talking about."

"All right, let's start with the two-year-old twins. Who's their father?"

"Well, I hate to tell you, but it was the preacher down at the valley church."

"What about the four-year-olds?"

"Now, that was the former preacher."

"All right, who is the father of the six-year-olds?"

"Oh my, them two. Ain't they handsome fellows? I just don't know who they belong to. They's born before I got religion."

解説

二歳・四歳・六歳の三組の双子の母親が援助を受けようと、福祉の担当者のインタビューを受けている。夫のことを尋ねられると、「亭主なんていたこたァなかったわ」。また、それぞれの双子で父親が違うことが判明。二歳組の父親は谷筋を下って行ったところの教会の牧師。四歳組は前任者の牧師。六歳組について尋ねられる

と、「アー、あの二人ね。イケメンでしょう？　テテ親は誰になるんだろうね。なんせ、牧師さんと知り合う前のことなのよ」とのこと。

この女性がなんのてらいもなく規範から外れた話し方をしていること自体が面白みを誘っている。“No, ain't never had one” は二重否定に見えるが、No, I have never had one の意味である。二重否定は“ain't 云々”の文ではしょっちゅうお目にかかるものの、二重否定だから肯定である、とはならない。また “Ain't they handsome fellows?” は Aren't they handsome fellows? とするほうが規範的である。つまり、“ain't” は be 動詞の否定、また完了形の否定で使われている。庶民の間ではごく普通に用いられる語法で、かつ、中流階級でもくだけた親しみのある話し言葉でもある。先般亡くなったフィリップ殿下は失言やジョークの多い、茶目っ気たっぷりの人だったが、訪問先でわざと相手に合わせて“bloody”(強調の副詞)だとか、また、この言い方をしたりしていた。

また、“Oh my, them two” は 「ア、あの二人の子ね」ということで、ここで顔を出している ”them” は、やはり deviant （規範逸脱）である。文法にのっとれば、“Oh, my, those two” であろう。子供たちの ungrammatical な発話 “Look at them big spiders on the ceiling!” （天井のあの大きな蜘蛛を見てみろよ！）の “them” を思い出す。さらに、“They's born before I got religion” も They were born before I got religion のこと。

付記

わざわざ記すこともないかもしれませんが、9 月 18 日に上記を発表しました折には、お婆さんの台詞はお婆さんらしく、ドギマギした青年の台詞などもそれらしくやってみました。お聞き苦しい向きもおありだったかもしれません。昔、といっても子供時代ですが、放送劇団におりまして、つい、昔取った杵柄よろしくやった次第でした。

また、ついでですが、日頃面白い語句を思いつくと、“anagram （語句転綴）もどき”、と言うよりは、parody＊よろしくちょいとメモしたりしています。今回のコンテストには手持ちの中からのものと上記の書を参考に投稿してみました。

＊例えば、Prayboy や Praymate などの他に

Batman　Badman　（悪漢）

King Kong　King Gong（王様のドラ）

Lion King　Lion Soaking（ずぶ濡れライオン）

Madam Butterfly　Madam Butterfry （バター揚げ物夫人）

Beauty and the Beast　Beauty and the Breast (美女と乳房)

Gone with the Wind　Gone with the Wink (ウィンクとともに去る) , etc.

以上、非常に個人的なささやかな愉しみもこの機会を利用して紹介してみました。

参加者一覧（敬称略）

安藤雅彦	小澤正樹	大谷秀之	長谷川真弓
岡本真弘人	田中洋一郎	岡田茂富	土屋政雄
相原悦夫	大野和子	豊田一男	今井真由美
中嶋秀隆	棚橋征一	佐川光徳	舟橋正敏

総合司会：長谷川真弓

WE, JOKERS 第 85 号
英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報
発行日：2021 年 10 月 10 日
発行人：世話人代表 豊田一男
編集人：佐川光徳
発行元：英語のジョークを楽しむ会
問合せ先：englishjokers@yahoo.co.jp